

発行部会
弥生会事務局
〒740-0012
山口県岩国市
元町1丁目
1番17号201
☎0827(30)5677
FAX0827(30)6577

http://iwakuni-yayoi.jimdo.com

季刊 やよい



参院選に思う

呪縛から抜け出せるか

錦白山塾塾長 隅 喜彦



この記事が皆さんの御目に留るころには今夏の参議院議員選挙の結果が出ていることでしょう。

1946年2月、GHQが新憲法草案(英文)を日本政府に手渡し、同3月に日本政府は若干の修正を加えて自主的な憲法改正草案要綱として発表しました。

この時、参議院という存在不明の機関が設置されました。

GHQの草案の国会は1院制でしたが、日本側が2院制を要請したので、旧憲法のもとで衆議院の急進性を牽制する役割を担わされていた貴族院に代わる機関の必要を感じ、要請が認められたので

す。
参議院は、初期には政党に所属しない知名度の高い知識人などが多く選ばれていましたが、その後、政党が議席を占有し、存在理由がなくなつたのです。
1980年代以後、衆議院で過半数を占めている政権与党が参議院議員選挙で議席を半数以下に減らす「ねじれ現象」がしばしば起こっています。

揺れ動く世論を小刻みに議会の構成に反映させる制度は、民主制の機能不全を増幅させます。
直近の選挙で国民多数に支持された政党が一定期間にわたり政権を担当し、実績を示してつぎの総選挙で世論の信認を求め、という仕組みが必要ではないでしょうか。

今後、憲法改正論議を行う場合には、参議院の廃止か存続を問う議論がなされてしかるべきだと思いますが、いかがでしょうか。
選挙が近づいてくると、いつも

スタートしました。

二十四年度の事業報告を見ると会員の皆さんの力あふれる活動ぶ

九月には「認知症サポート育成講座」が予定されている。
わが会には、この「認知症キアラバンサポーターメイト」の資格を持つ人が三人もおられる。いろいろな場面で行ういろいろな活動をされている会員の方がそれを帰って下さって私達の活動の輪が広が



りが躍動している。

今年度も各部会において新しい活動がすでに展開されている。

大変喜ばしい事です。
会員の皆さんも是非ご参加下さい。明るく元気をモットーに今年も頑張りましょう。

思いつくのは「衆愚政治」という言葉です。「愚かな民衆による政治」という意味です。
国民の全てが賢いという国家はあり得ないですが、国民の全てが愚かであるという国家もありません。

ただ、私たちが選んだ政治家の中に、国家及び社会を国民と子孫のためにどのようにして改革していくかを提案し、理解と支持を得ることが自分たちの責任だと考えている政治家がどれほどいることでしょうか。
そのような意識を持った人材を国民の多数が代表として選択するように初めて初めて前政権を選んだような大失敗を防げるのです。ここで国民が愚かであるか、賢いかが問われます。

今から百年前の福沢諭吉の言葉です。
「愚民の上に奇き(むごき)政府あり...」
「政府は国民自身の姿を示す。我々は遠慮なく政府を批判する権利と共に義務も担う。政府が一人賢くて国民が愚かなことはない、という事は国民だけが賢くて政府が愚かという事もない。政府の知恵は国民の知恵を示す何物でもない。駄目な政府の存在は国民の愚かなことにあり」
「ポピュリズム」という言葉があります。大衆迎合主義と訳されています。

政治に従事している議員は、民衆の支持を得なければ、政治家と

いう専門職から離れ、ただの人となる厳しい現実に向かいます。よって大衆に迎合する傾向にあります。

政治・経済・社会・文化の動きを日常的に観察し、追跡し、報道しているマス・メディアも目前の事象にエネルギーを費やし、長期展望のなかで日本の危機の本質を見極めようとする取り組みは少ないのです。
新聞やテレビの世論・意向調査は大衆迎合主義を助長しています。

日本の学者・行政官・政治家は「なれあい」の集団です。責任を問われる事柄は実に多いです。これまでの無責任な発言を反省する努力はみられず、相変わらず当面の大衆迎合の体質は変わらずに継続しています。

政治家は、絶えず揺れ動く世論調査の数字を気にしています。長期展望の中で日本の針路を考え、議論する政治家を育てないのもポピュリズムの弊害です。
政治家も国民も、そして国家も、その危険性にさらされています。
衆愚が愚かな政府を生み出し、愚かな政府が衆愚を育てるといふ悪循環から一日も早く脱却しないと、日本の未来はないのではと懸念しています。

今回の参院選挙は戦後体制の呪縛から抜け出し、日本の将来を決定する大事な選挙でした。日本国民の良識が発揮され、良い結果に

なっていることを期待します。

政策アツプセミナー「元町

介護保険について知ろう

介護保険の現状、サービスの利用、地域包括支援センターの役割について学ぶ

介護というと、親を思い浮かべていたが、そろそろ配偶者や自分自身の介護を考えなくてはならない年齢になってきました。いざという時に困らないように岩国市地域包括支援センター第一

班の馬嶋恵美保健師に介護について教えていただくことにしました。



馬嶋保健師

◎地域包括支援センターの3つの仕事

(1) 元気な高齢者を含む全ての高齢者のために

○介護や生活上の困りごとなどのあらゆる相談の受付

▼介護生活相談

▼高齢者に関する虐待の相談(周囲が虐待をしなくてもよいような体制づくり)

▼高齢者の権利擁護・成年後見の相談

▼入退院時の調整など(自宅での生活に困らないように)

▼家族介護者相談会(毎月第2月曜日)

○介護予防教室の開催

高齢者自身が介護予防に取り組む、元気な高齢者が増えるように

する

▼介護予防や認知症予防に関する講座や講演会の開催

▼鯉御予防教室や認知症サポート養成講座の開催

(2) 二次予防高齢者(虚弱高齢者)のために

要支援・要介護状態になることを予防

▼基本チェックリストを行う(日常生活で必要な心身の働きをチェックする25項目)

▼基本チェックリストでチェックのついた高齢者をかかりつけ医で診察

▼二次予防高齢者のためのデイサービス等で、運動機能等の向上を図る

(3) 要支援1・2の方のために

要介護状態になることを予防

▼地域包括支援センターと介護予防支援についての契約を交わす

▼サービス利用のために、介護予防サービス・支援計画を作成する

▼介護保険サービス(デイサービス・ヘルパー等)を利用開始する

岩国市では、地域包括支援センターを6箇所設置しています。相談はどの支援センターでも受け付けています。

▼健康寿命を2年伸ばそう!!

◎日本人の健康寿命は?

健康寿命とは、自立して生活できる期間を表します。日本人の平均寿命は男性79・59才 女性86・

5年前の危機的状況にゾッとする思い

5年前の危機的状況にゾッとする思い

弥生会通常総会も第6回を数えることができ、民にとってワクワクするお話を伺いました。最も広い岩国市内の各所で指導的役割を果たしていただける弥生会会員の皆様、度々お会いすることかかないませんが、ご支援いただいていることをいつも感じております。本年も百二十人を超えるご参加を得て盛大に開催することができました。



福田市長様にはご多用の中ご臨席を賜りまして、危機的状況にあつたかを現場から直にお聞きしました。昨今の市政の様子などをお話し下さいましてゾッとする思いでした。また3月の大引つ越た。岩国錦帯橋空港の経済波及効果が目に見え、し作戦も映像で紹介して頂き、臨場感いっぱいになり、若さあふれる市長の言葉マンブの講演会でした。

弥生会副会長 館 澄子

■約3人に1人が65才以上

◎岩国市(3月末人口)の65才以上人口は?

全国平均23・0% 山口県28・0% 岩国市30・2% うち後期高齢者は16・2%となっており、高齢化が進んでいます。

65才以上が半数近く、75才以上の後期高齢者が3割という地域もあります。ひとり暮らしの65才以上は市内全域では6、086人、75才以上高齢者夫婦は市内全域で2、077世帯で高齢者のみの世帯が増加しています。高齢者やひとり暮らし、高齢者夫婦に対する災害時を含めた生活支援・対策が必要になっていきます。

◎90才以上の7割が介護認定を受けている

◎要介護認定を受けている方は何人くらい?

介護を必要とする度合い(要介護区分)の認定を受けた人は申請をした人が8、231人(3月末)。

そのうちサービスを受けている人は6、892人。年代別認定割合では、65才以上は2・9%、85才以上は4・4%、90才以上は72・4%の方が認定を受けていることとなります。

90才以上でも27・6%の方が認定を受ける必要が無いお元気なお年寄りです。

◎意外に少ない転倒

◎要介護状態になる原因は?

- 日本人の死因は、がん28・7%、心臓病15・8%、肺炎9・9%、脳血管疾患9・7%となっています。では要介護状態になる原因には何があるのでしょうか。
- ①脳血管疾患②認知症③高齢による衰弱④関節疾患⑤転倒が原因

となっております。

生活習慣を見直し、運動や食事の改善による生活習慣病の予防の必要が解つていただけると思いま

■いざという時にどうする
◎介護保険サービスを利用するに

▼岩国市介護保険課または各総合支所担当課の窓口で「要介護認定」の申請をします。家族が申請してもかまいませんが、本人の同意が必要

▼専門の調査員が訪問し、心身の状態や、日常生活の自立度等についての聞き取り調査をします。市の依頼により主治医が意見書を作ります。

▼訪問調査の結果と主治医の意見書を基に、「介護認定審査会」でどのくらい介護が必要かを総合的に審査・判定します。

▼市は「介護認定審査会」の判定に基づき、本人に認定結果を通知します。

(この間1ヶ月)

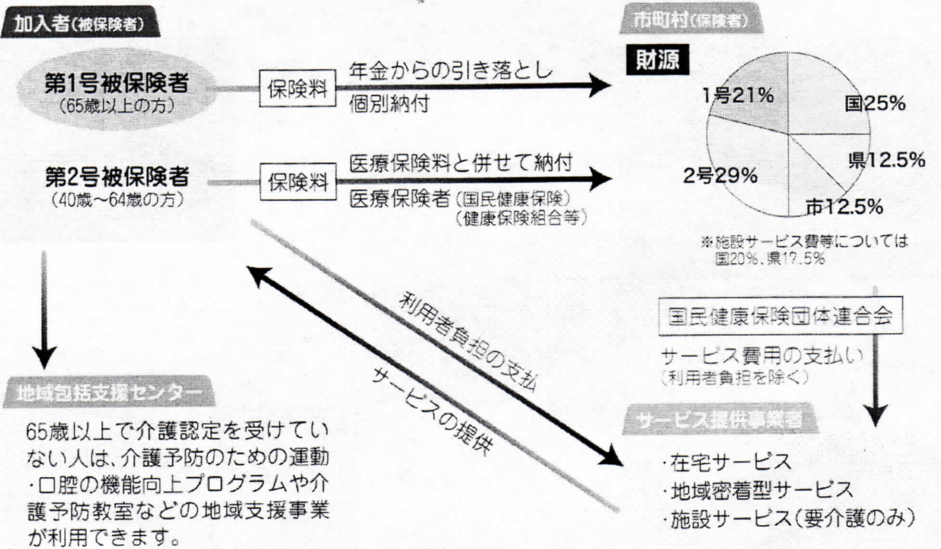
▼認定結果によりどのようなサービスをどのくらい利用するのかというケアプランを作ります。

要介護の方は、居宅介護支援事業者やサービスを提供する施設がケアプランを作成します。

要支援の方は近くの地域包括支援センターがケアプランを作成します。

該当しなかった人は介護保険によるサービスは受けられません。岩国市が行う地域支援事業等

◎介護保険制度のしくみ



のサービスを利用できる場合があります。本人や家族と担当者が「困っていること」「どのような生活を希望するのか」よく話し合うことが大切です。

試してみると良いでしょう。中には、在宅介助の支援サービスを受けられるようになります。家にもりきりで、身体を動かさなくなり、寝たきりになってしまったという事例もあります。必要なサービスと過剰なサービスの取捨選択が大事になります。

●1ヶ月に10億円
◎24年度にかかった介護保険給付

★遊休品提供のお願い

本年も岩国まつりチャリティーバザーに出店いたします。遊休品、手作り作品、家庭菜園・本格農業の自慢の野菜、何でも大歓迎です！

- ◎収集日 9月27日13時30分～遊休品
10月3日13時～遊休品
10月19日13時～生鮮品・遊休品
- ◎値付け 10月19日13時～
(ボランティア募集)

- ◎場所 弥生会事務所(デミオ元町201)
- ◎連絡先 館(090-3635-2074)
- ※ご連絡いただけましたら取りに伺います。

★岩国まつり協賛 チャリティーバザーのお知らせ

- ◎日時 10月20日(日)10時～売り切れ終了
- ◎会場 岩国まつり おまつり広場チャリティーバザー会場

政策アップセミナー in 元町 Part 2 認知症サポーター養成講座を開催します

あなたもサポーターになって、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援しましょう！

- 認知症サポーターに期待されること
- 認知症に対し正しく理解し、偏見をもたない。
- 認知症の人や家族に対して温かい目で見守る。
- 近隣の認知症の人や家族に対して、自分なりにできる簡単なことから実践する。
- 地域でできることを探し、相互扶助・協力・連携、ネットワークをつくる。
- まちづくりを担う地域のリーダーとして活躍する。

日時 9月27日(金)14:00～16:00
会場 弥生会事務所(デミオ元町201)
講師 八木かおり
連絡先 館090-3635-2074

■ぴんぴんころり？ ◎20年後どのように暮らしていたいですか？

20年後、少しでも健康で自立した生活ができるよう、今から準備をしておくとい良いでしょう。週3

回以上30分程度の全身を使う運動をしていると、認知症の予防になり、圧迫骨折等の予防にもなります。

脳梗塞などの初期症状、顔や手足が痺れたという症状が出たときは4時間半以内に受診すれば後遺症が残らないそうです。

食生活を改善し、禁煙などの生活習慣を改善し、健康診査やがん検診を受診することにより、病気の予防や早期発見が期待できます。

岩国市では介護予防教室やロコモティブシンドロームの予防教室を開催するとともに、認知症への理解や接し方を体験する認知症サポーター養成講座を開催しています。

岩国の歴史を訪ねて

西村典子

知っているようで知らない地元の歴史を、あらためてお勉強しましょうと、横山周辺を訪ねることになりました。

この日は奇しくも梅雨の晴れ間の暑い一日。まずは、いつも見慣れた錦帯橋を下から見上げるところから。弥生会とも縁のあるボランティアガイドの内田さんにご案内いただきました。

はじめてまじまじと見上げた錦帯橋。橋桁の石組のこと、橋の木



内田さんの案内で吉川広家像を見学



組みのこと、美しい五橋を支えるその仕組みを知って渡ると、また新たな感動を覚えます。

様々に岩国の歴史をお話しいただきながら香川家長屋門、吉川家の墓所、みみずくの手水鉢、丁度見頃の菖蒲の花を愛でた後は初めてお昼の鵜飼を楽しみました。新緑の時を過ぎ、緑濃くなるお城山、この山を「吉川家の品格」

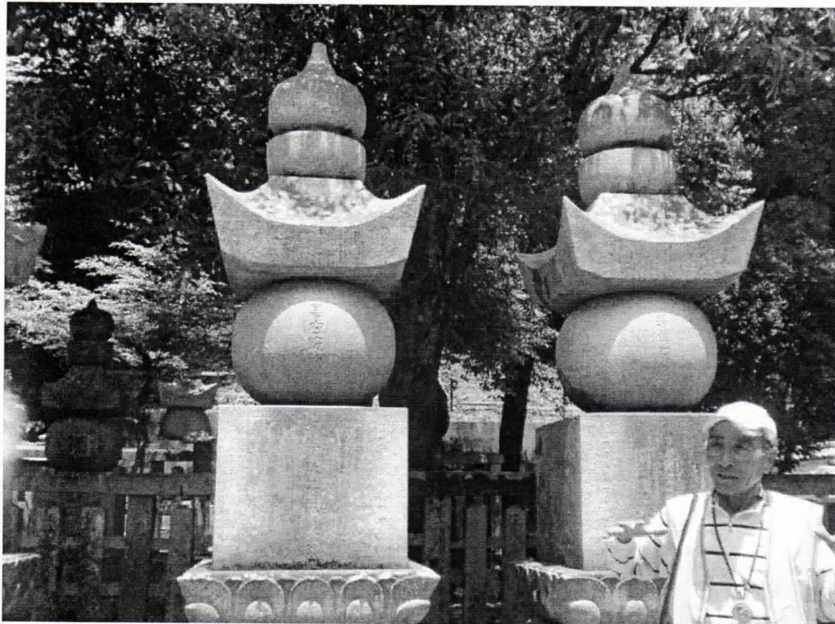
と評した方がありました。川面からお城を見上げると、その言葉があらためて蘇る午後ひとときです。吉川家入封以来四百年余保たれてきたこの自然林の姿はこれからも私達の心を癒し励まし続けることでしょう。

岩国に住んで良かった

升村喜美子

六月十六日(日)午前中、観光ボランティアの方の案内で横山散策の楽しいひとときを過ごした後、午後の予定は「昼鵜飼」。錦帯

橋の河原より参加者十一名での乗船。お弁当もテーブルに用意され、梅雨とは思えない爽やかな川風を受けながらまずは昼食会。女性向きの洋風弁当を堪能した。夜鵜飼では味わえない景色、お城を望み、錦帯橋を愛でながらわ



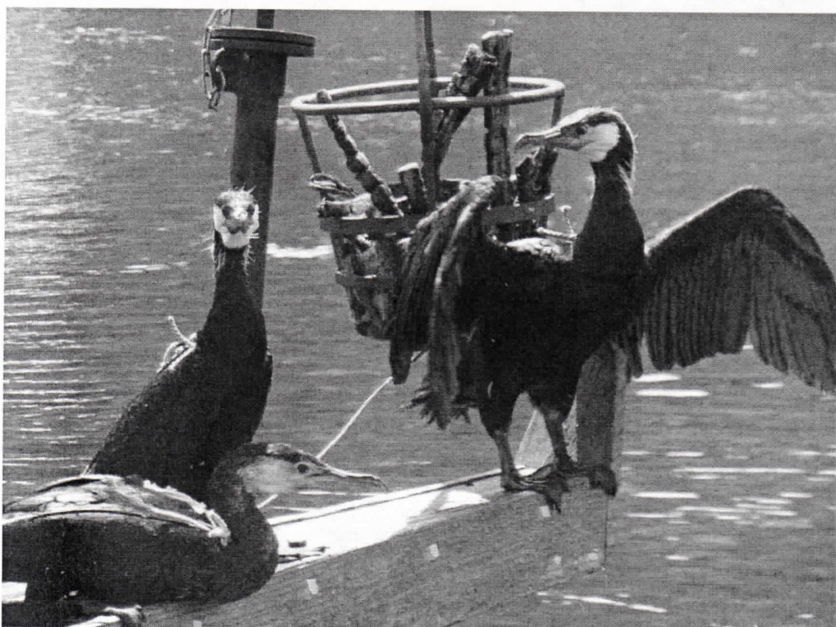
吉川家の墓所を訪ねて



いわい、がやがやとおしゃべりも一層弾む。いよいよ、鵜飼舟のお出まし。鵜匠、船頭、鵜が信頼の絆で結ば

れた素晴らしい伝統あるシヨウウで、人と自然と鵜が一体となって「いにしえ」を今に伝えているものである。篝火が焚かれ、手縄の先には可愛い鵜の七羽ばかりが一生懸命に鮎を取るために水中に潜っている。船縁を叩いて「ほうほう」と声援を送る。十センチばかりの鮎が舟を目標けて投げ込まれる。岩国に住んでいて良かったと思つた感激の鵜飼い見物であった。錦帯橋映ゆる水面のかがり火にほうほうと鵜を励ます聞こゆ

預選者 古沢政士



長幼の序を持つと言われる鵜